

成長可能性に関する説明資料 イーレックス株式会社



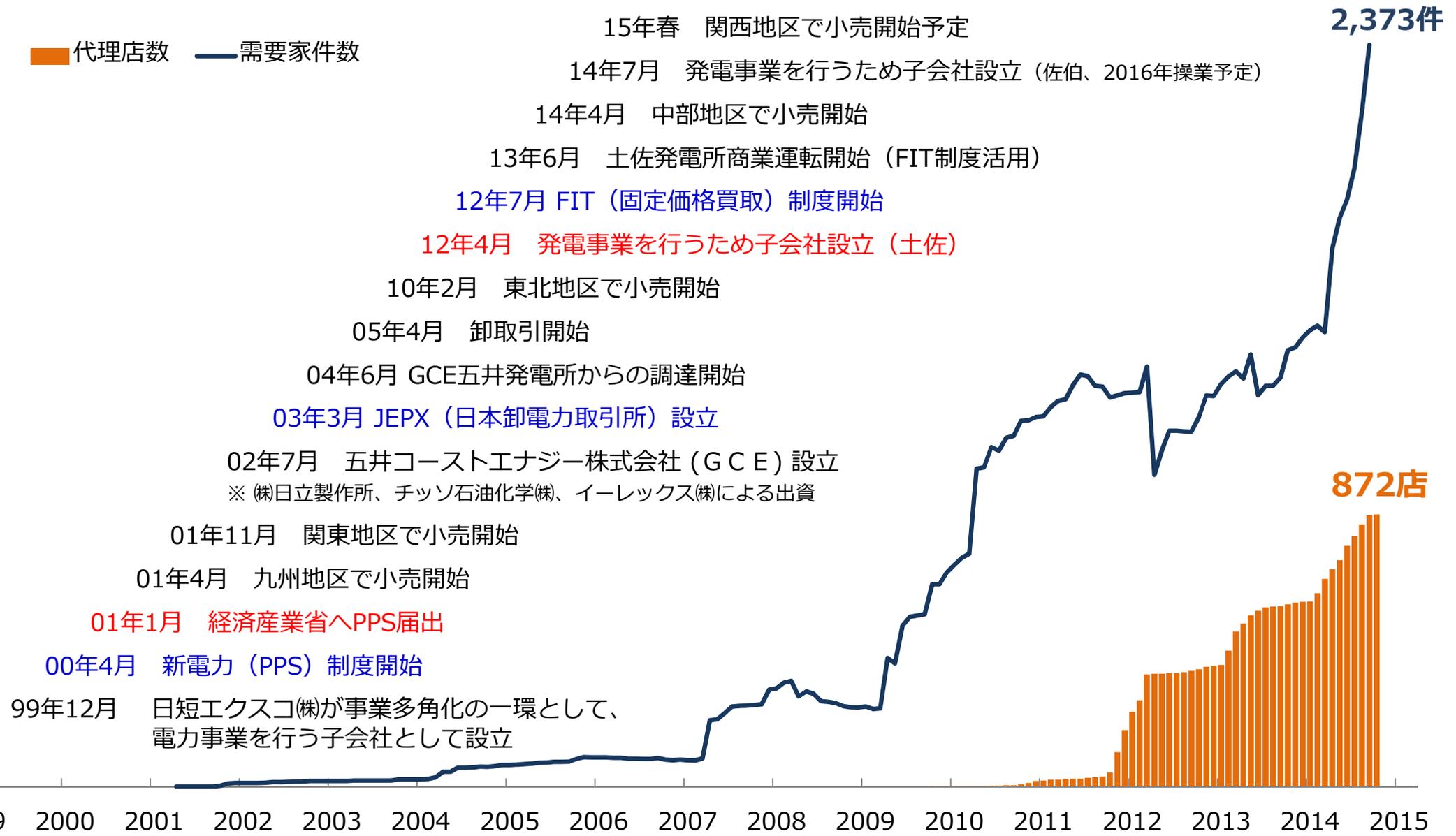
新たな成長局面を迎えたイーレックス

PPSのパイオニアとしての地位を着実に固める

I	会社概要と市場動向	・ ・ ・	2
II	当社の特長	・ ・ ・	7
III	成長戦略	・ ・ ・	17
IV	業績の推移	・ ・ ・	26

I . 会社概要と市場動向

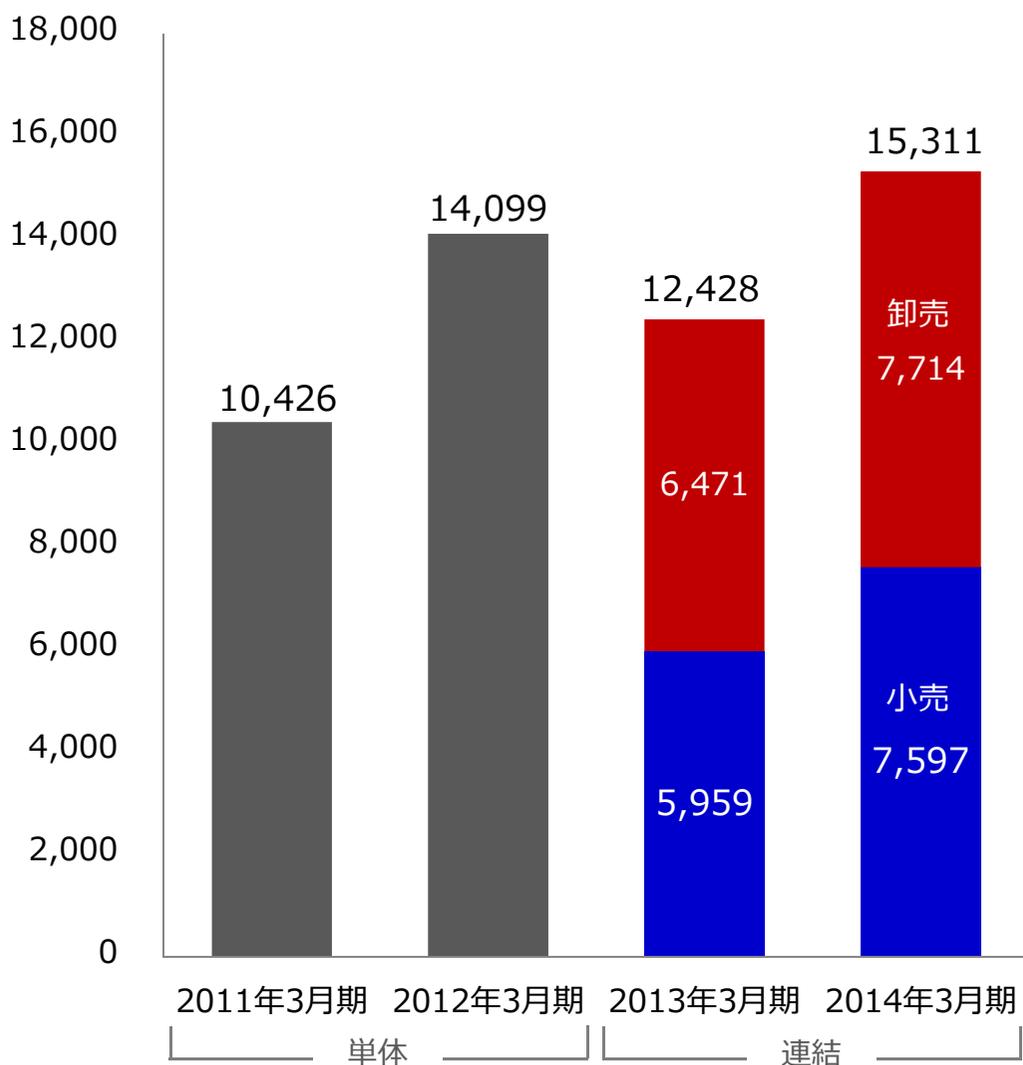
本社	東京都中央区日本橋本石町三丁目3番14号
事業内容	電力自由化の流れの中で、新電力として電力小売を中心として展開
代表者	代表取締役社長 渡邊 博、代表取締役副社長 本名 均
設立	1999年12月
資本金	990百万円（2014年9月30日現在）
連結子会社	イーレックスニューエナジー株式会社、イーレックスニューエナジー佐伯株式会社
従業員数	連結：44名 / 単体：31名（2014年9月30日現在）
経営理念	社員は、絶え間ない挑戦と自らの強みを活かし、企業の発展を促し、社会の生活向上に貢献します



IRR15%の投資基準を堅守し、高い利益率を実現

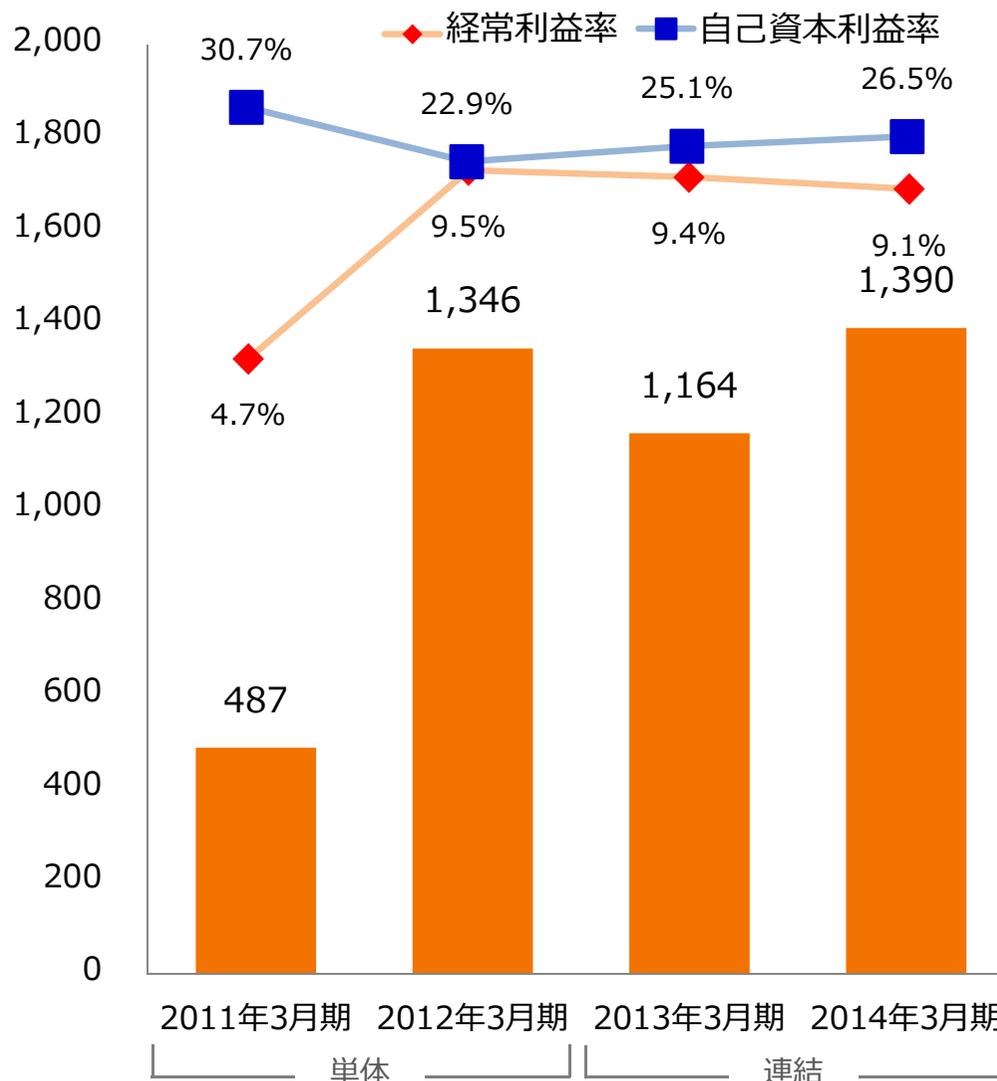
売上高

単位：百万円



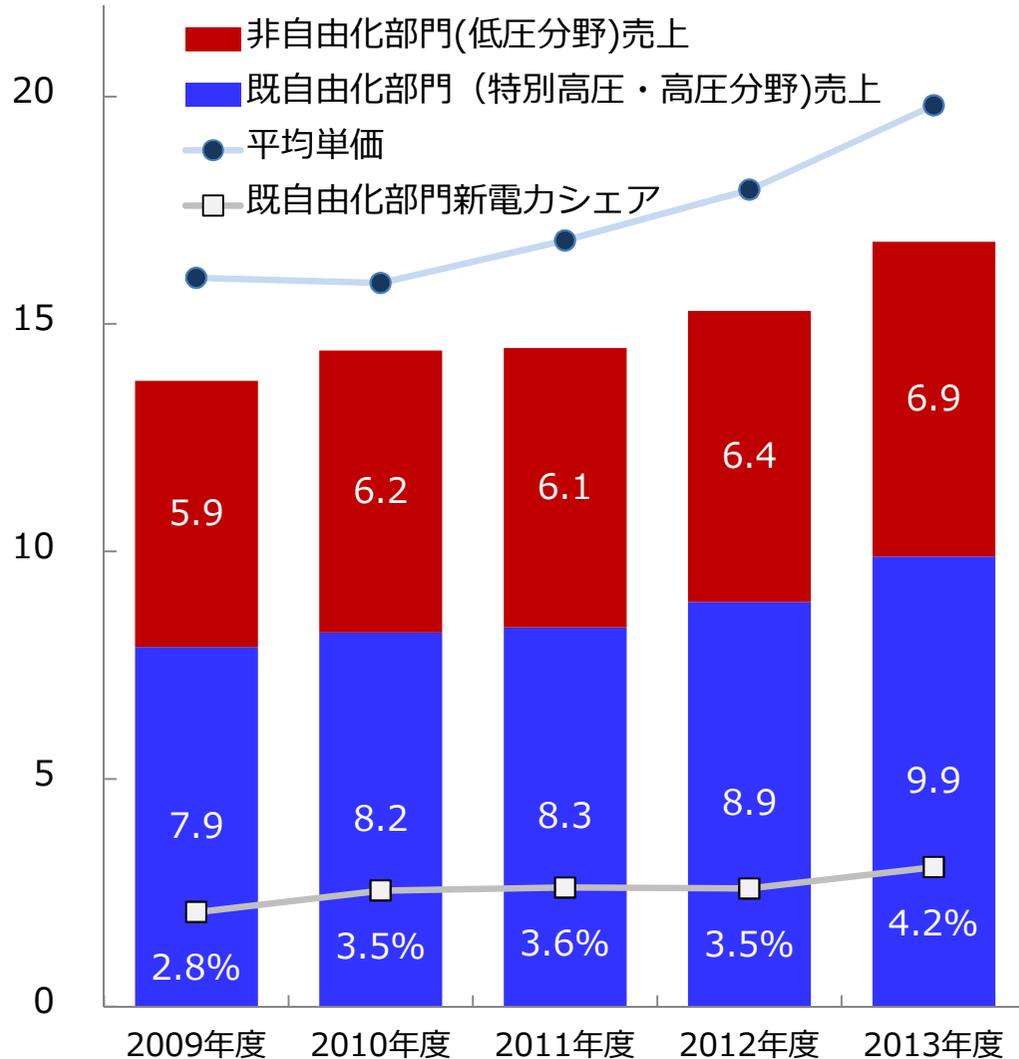
経常利益

単位：百万円



電力市場規模推移 (10電力計)

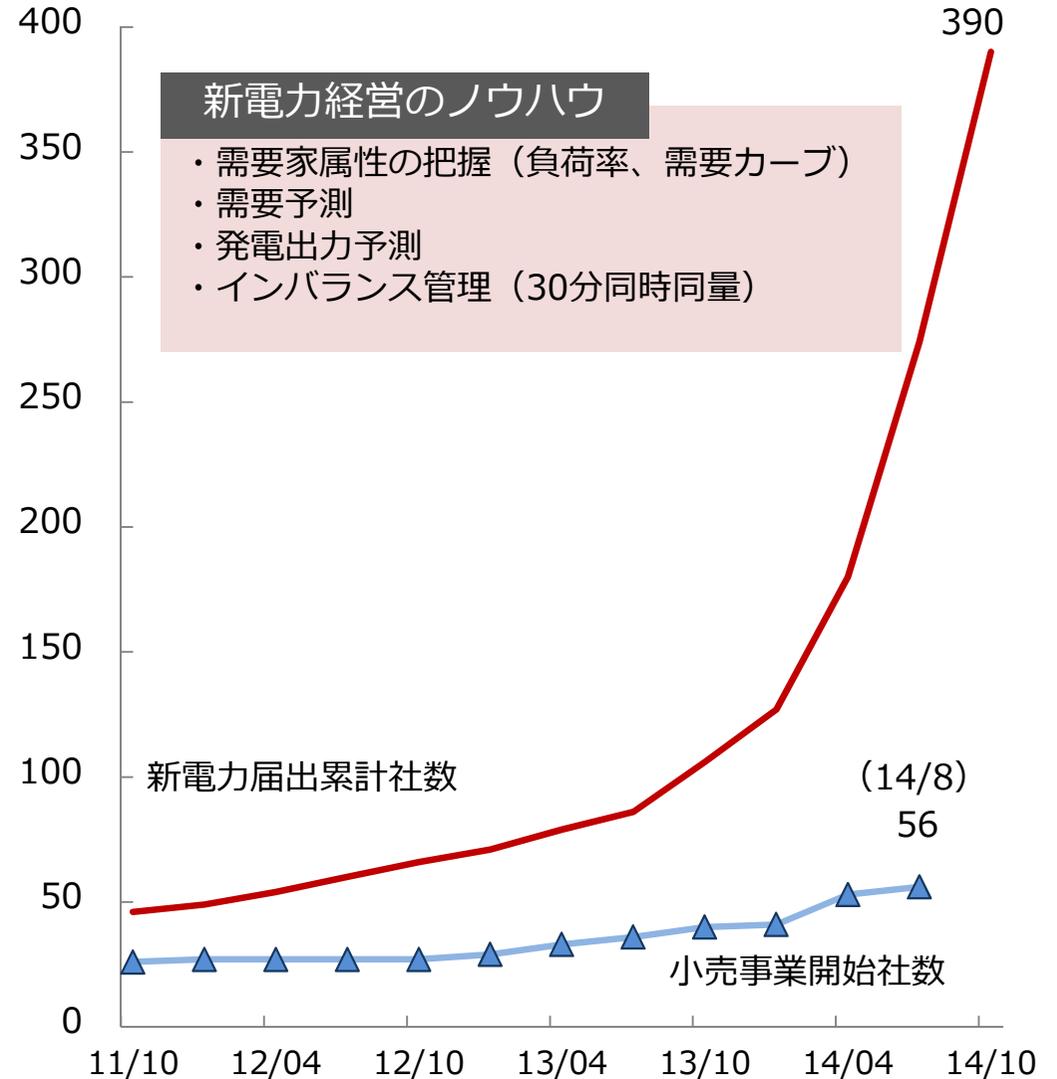
(兆円、¥/kWh)



(出所) 経済産業省資源エネルギー庁「電力調査統計」、電気事業連合会「電力統計情報」

新電力社数の推移

(社)



新電力経営のノウハウ

- ・需要家属性の把握 (負荷率、需要カーブ)
- ・需要予測
- ・発電出力予測
- ・インバランス管理 (30分同時同量)

Ⅱ. 当社の特長



POINT 1

競争力のあるベース電源



POINT 2

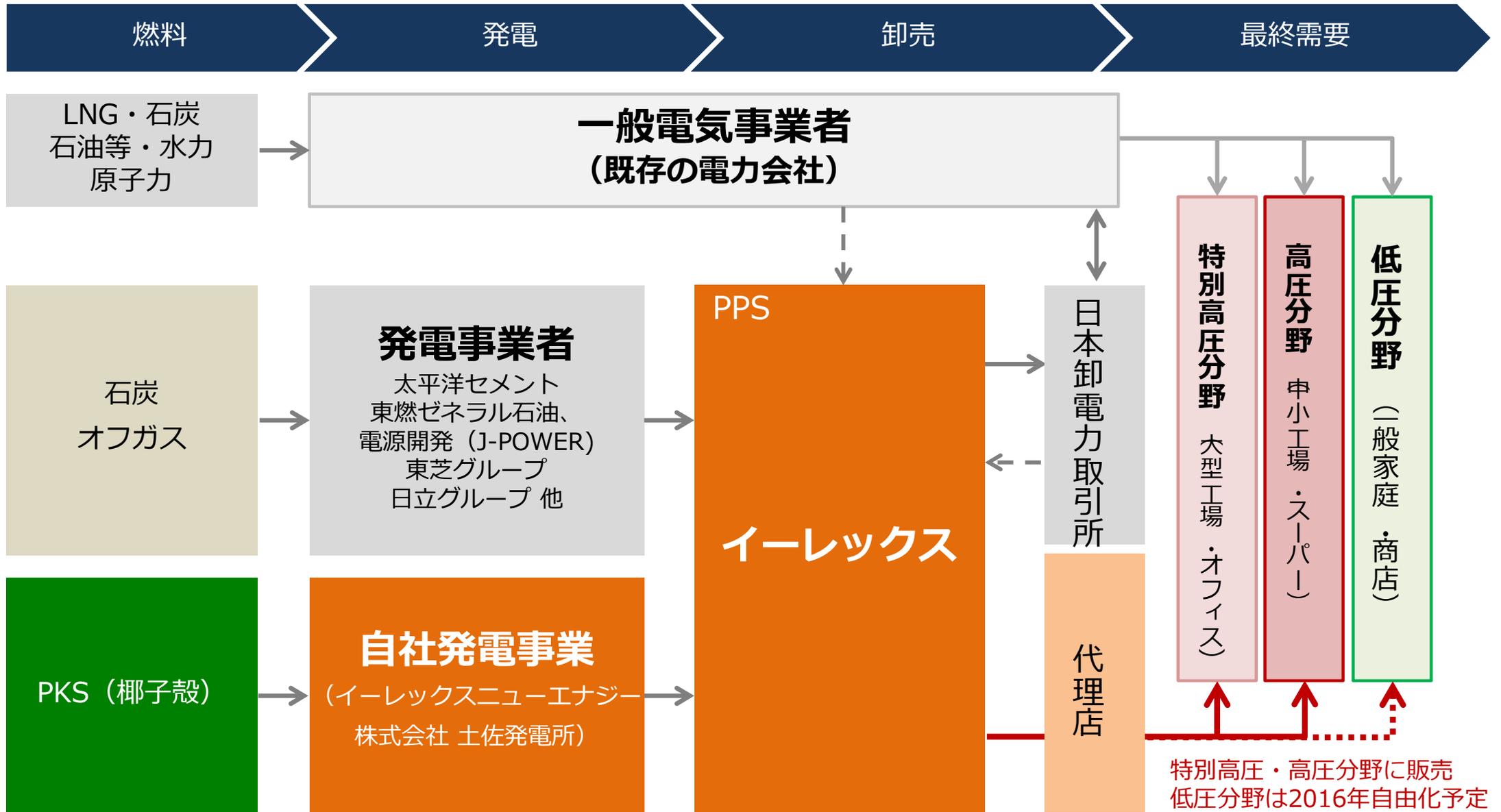
機動的な販売戦略



POINT 3

短資会社由来のディーリングノウハウ

当社を取り巻く電力の流れ



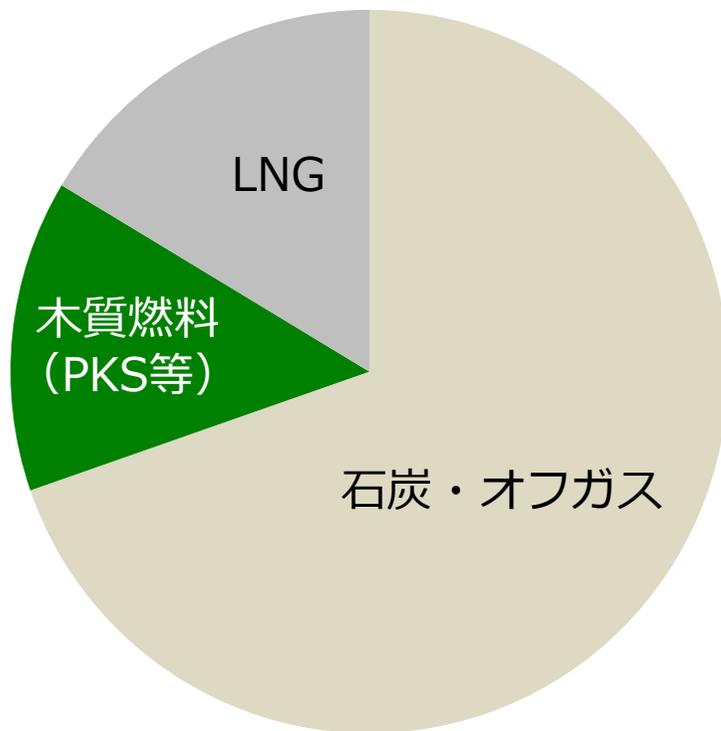
特別高圧・高圧分野に販売
低圧分野は2016年自由化予定

(注1) PPS: Power Producer and Supplier
(注2) ———▶ ……主要な電力の流れ - - -▶ ……補助的な電力の流れ

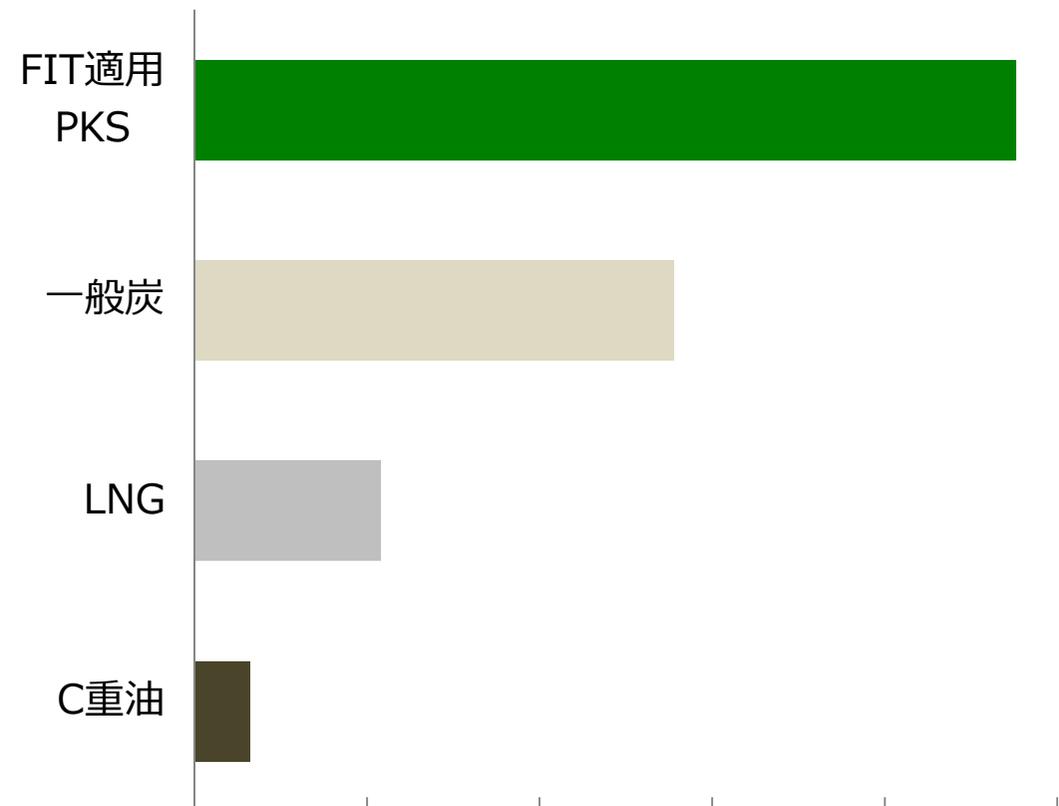
高い収益性を誇るバイオマス発電

- FIT（固定価格買取制度）を活用したバイオマス発電により、高い収益性を実現
- 日本で初めてPKS（パーム椰子殻）を主燃料とした発電を開始、安定操業に成功

電源構成比



燃料別の粗利（試算）

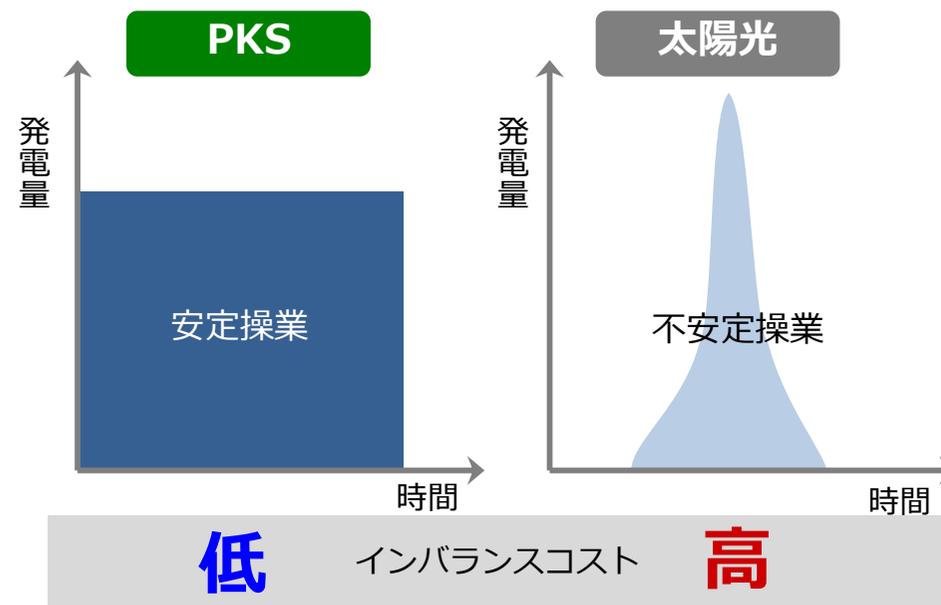


競争力のあるベース電源（自社保有）

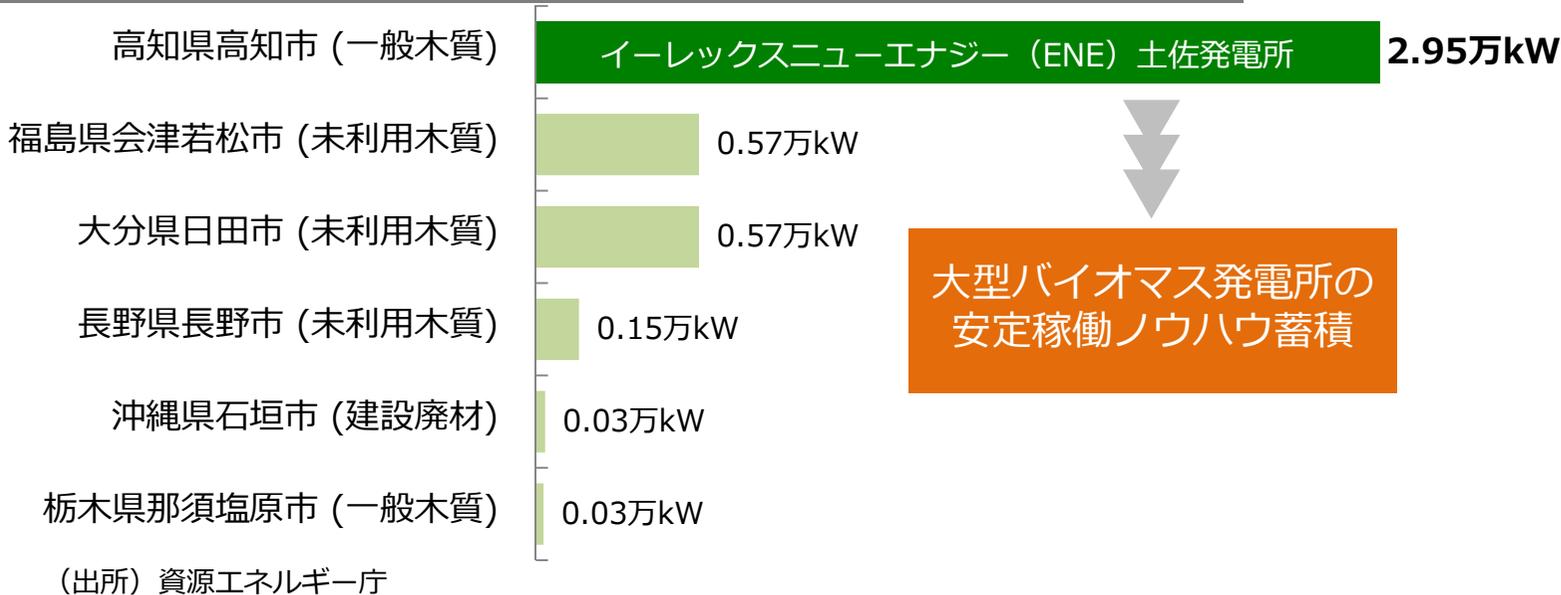
イーレックスニューエナジー（ENE）土佐発電所

所在地	高知県高知市	燃料	PKS(パーム椰子殻)
発電方式	バイオマス発電方式	出力	定格出力 2.95万kW

- 我が国初のPKS発電プラント
- 常に一定の発電量を維持できるため、ベース電源としての優位性を持つ
- 太平洋セメント土佐工場（現在はセメント生産を中止）内に立地
- 土佐工場のインフラや人材（OB社員等）を利用



FIT認定の木質バイオマス発電所一覧（2014年3月現在稼働分）



▲ 土佐発電所外観

PKSの燃料としての性質

- PKSはPalm Kernel Shell（パーム椰子殻）の略
- パーム果実の種から核油を搾油した後の殻
- 殻は硬質であり、重量当たりの熱量が高い（3,500kcal/kg前後）
- 水分率については20%前後と、他のバイオマス燃料に比べて低い
- 問題点は異物の混入 ⇒ PKS置場において、篩（ふるい）による異物除去を実施

▼ PKS



需給環境

供給（1,000万トン超/年が続く見通し）

需要（約100→300万トン/年の見通し）

輸出国



インドネシア



マレーシア

輸入国



日本



韓国



シンガポール



タイ

需要は増えるものの、供給超過は続く見通し

低コストの購入電源

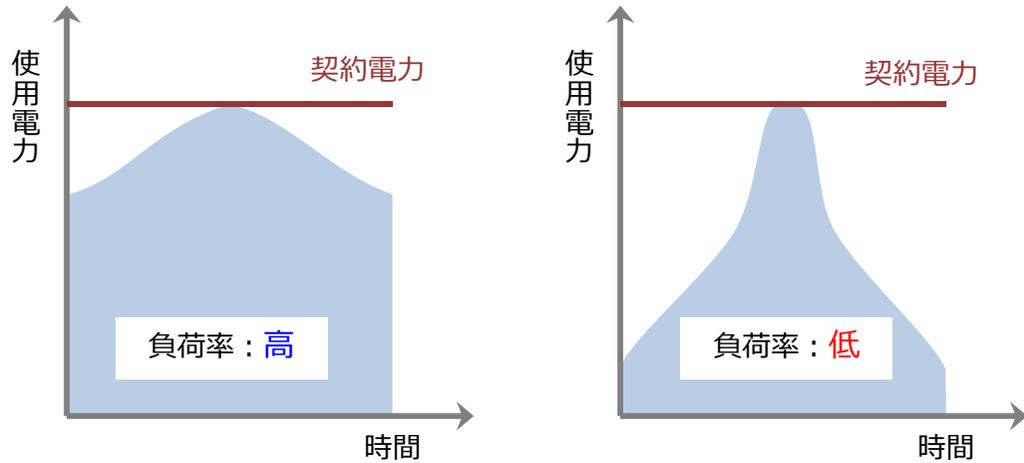
- オフガスや石炭火力など低コストの安価な電源を購入
- 資本関係を構築することで、Win-Winの関係を構築



独立系ならではの自由度の高い販売戦略

- 徹底した収益性重視の観点から採算の高い（＝負荷率の低い）民間小規模顧客を優先
- 他の新電力よりも高く、既存の電力会社よりも低い価格で販売

負荷率と電気料金

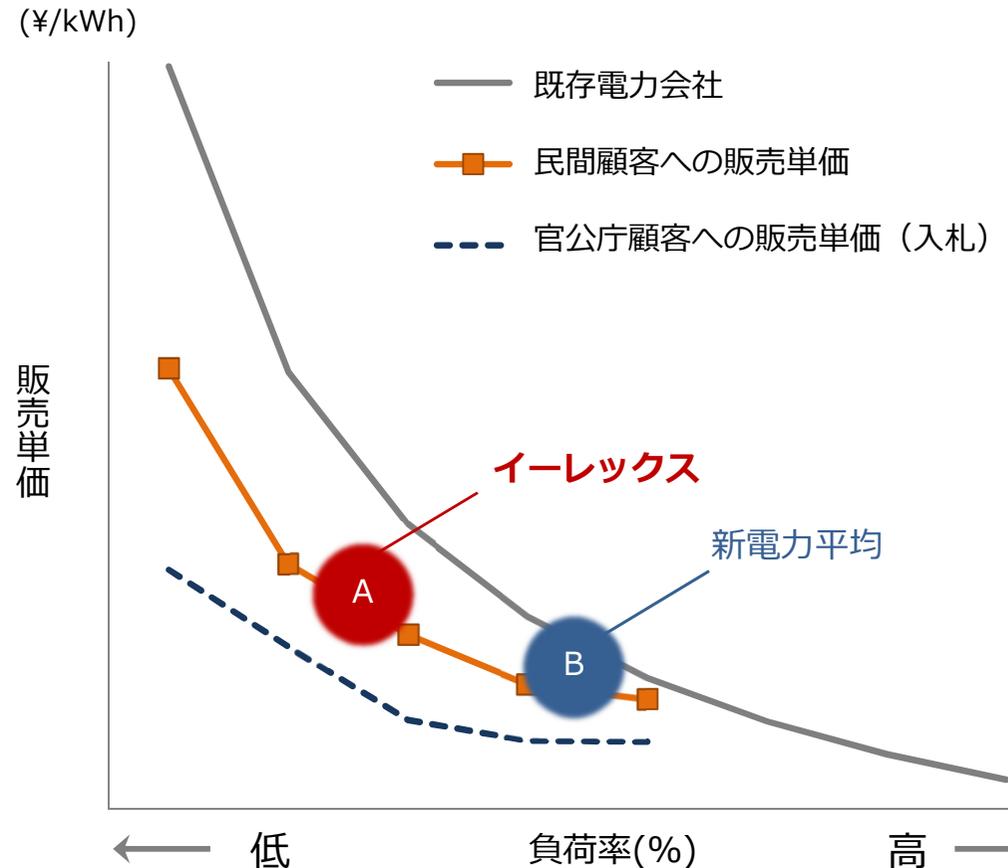


契約電力	基本料金
1kW	2,000円
使用量	従量料金
400kWh	4,000円
販売単価	
$(2,000+4,000)/400 = 15\text{円/kWh}$	

契約電力	基本料金
1kW	2,000円
使用量	従量料金
200kWh	2,000円
販売単価	
$(2,000+2,000)/200 = 20\text{円/kWh}$	

(注) 負荷率 = 年間使用電力量 ÷ 契約電力 × 24h × 365日

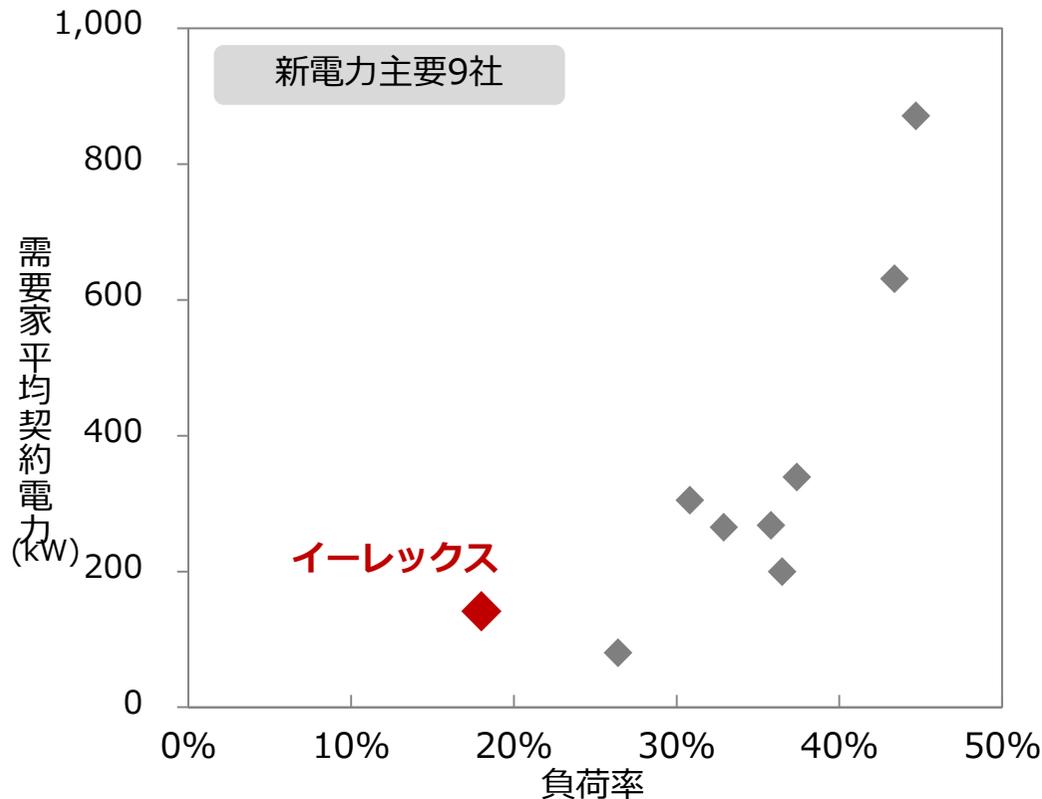
負荷率と販売単価



収益性を重視した代理店制度による販売網

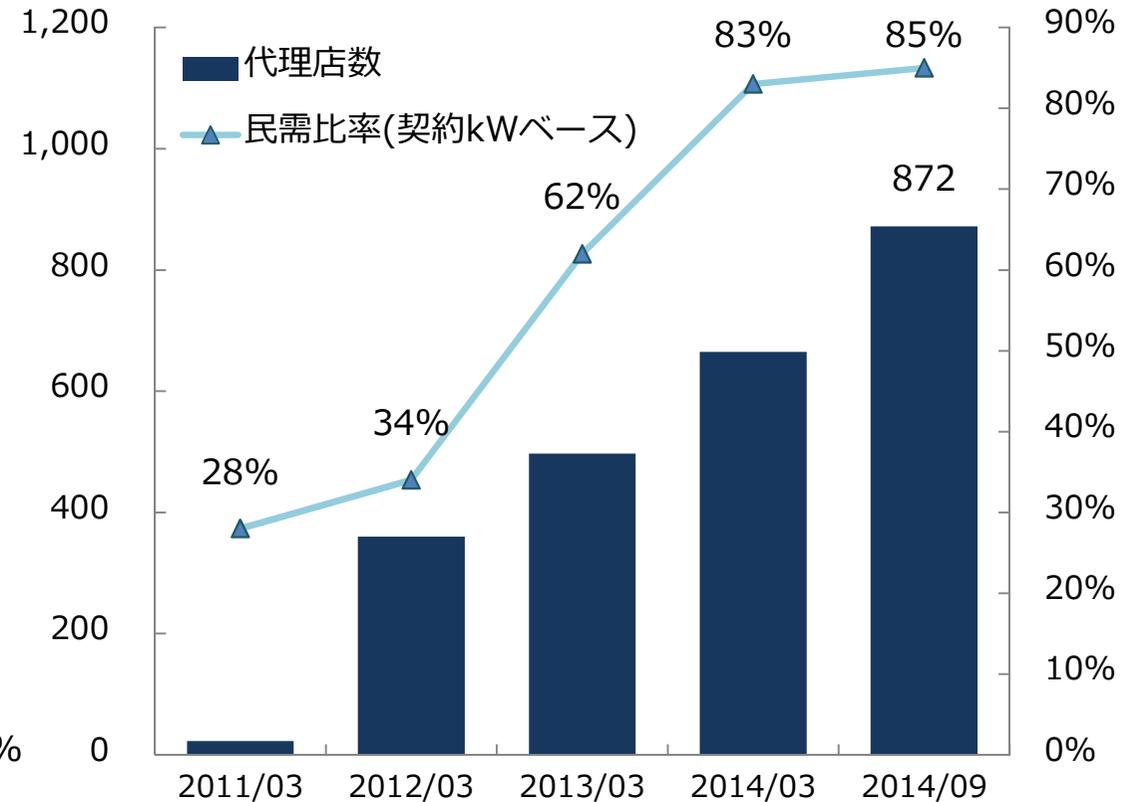
- 負荷率の低い顧客は小規模であるため、代理店制度により販売網を拡充
- 電気主任技術者の活用により、顧客の信頼獲得
- 官需から民需へ販売戦略をシフト

負荷率と顧客規模



(出所) 富士経済 (2013/10)、当社集計

代理店数と民需比率の推移



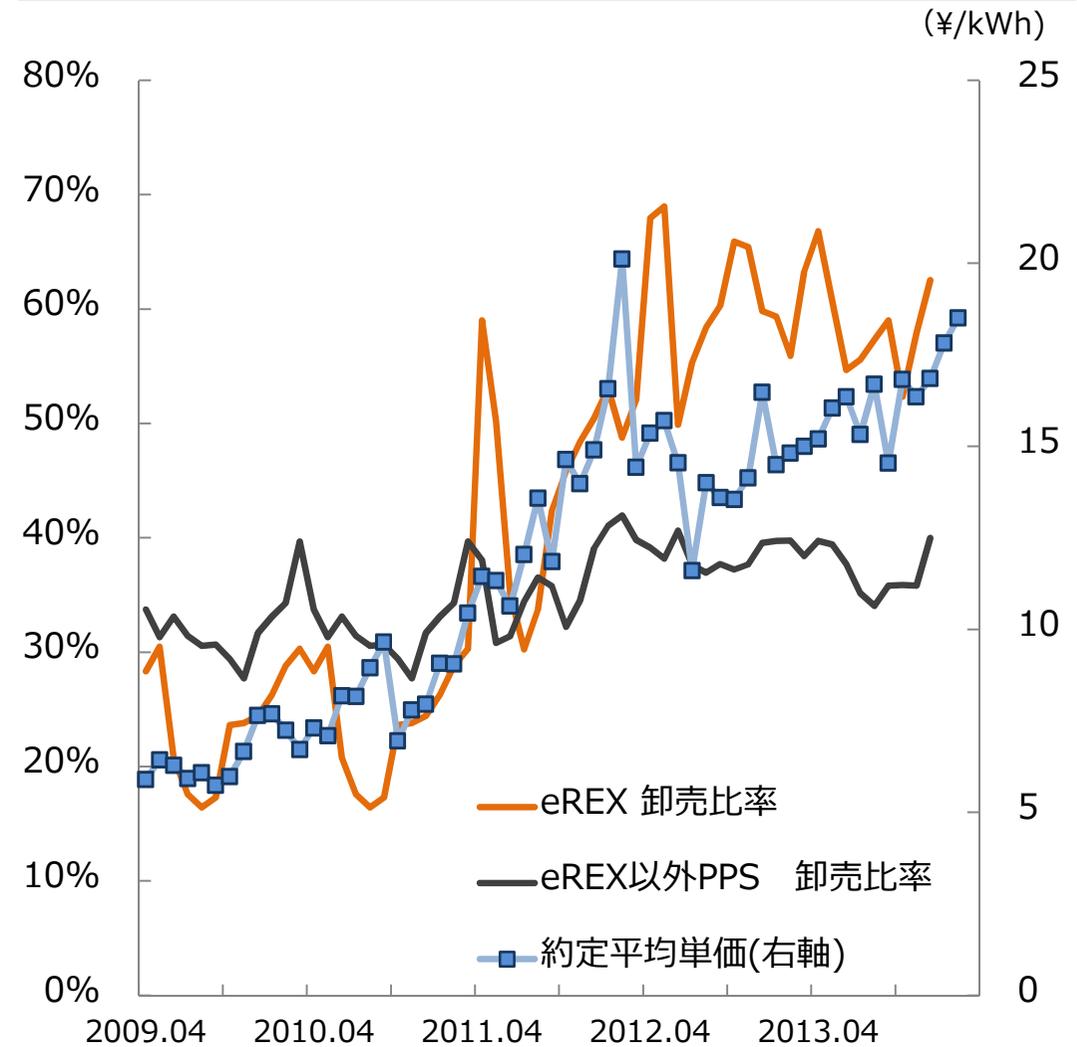
(出所) 当社集計

日本卸売取引所の有効活用による利益の極大化

需給調整能力

- 当社は安定的ベース電源を保有していることで、弾力的な運用と利益の最大化が可能
- 他の新電力（PPS）の多くは安定的ベース電源を持たず、供給不足を取引所からの購入に依存
- 当社は価格に応じて、小売と卸売の比率を変化させてきた(右グラフ参照)
- 全面自由化に向けて「1時間前市場」の創設が検討されており、事業機会の増大に寄与

取引所電力価格と卸売比率の推移



(出所) 日本卸電力取引所、資源エネルギー庁

Ⅲ. 成長戦略

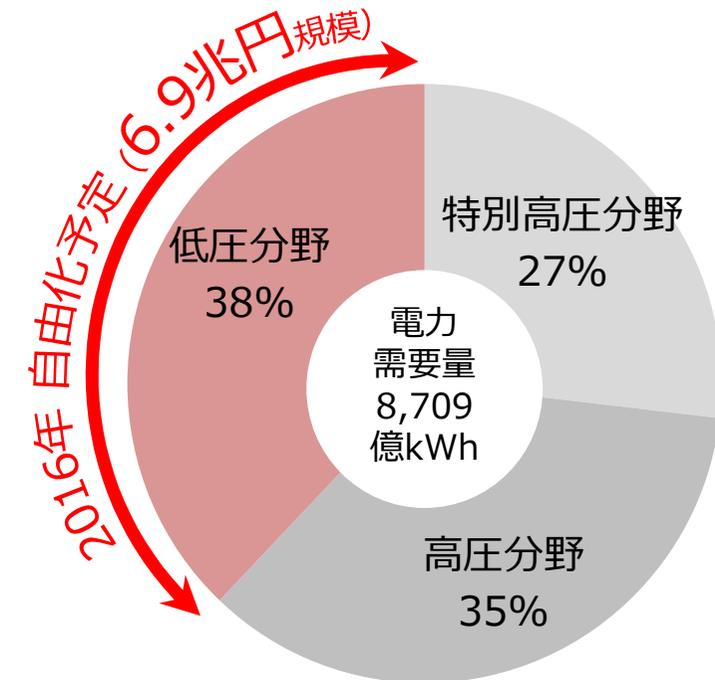
-  **低コストのベース電源を増量**
-  **バイオマス発電所の建設**
-  **PKSの安定調達**
-  **代理店営業による部分供給顧客の獲得**
-  **エリア拡大による新規顧客の獲得**



特別高圧	高圧	低圧
○ 販売可能	○ 販売可能	✕ 現在販売不可 (2016年4月自由化予定)
大型工場・オフィス	中小工場・スーパー	一般家庭・商店

受電電圧		
20,000V以上	6,000V以上	100~200V
需要規模		
2,000kW以上	50kW~2,000kW	50kW未満

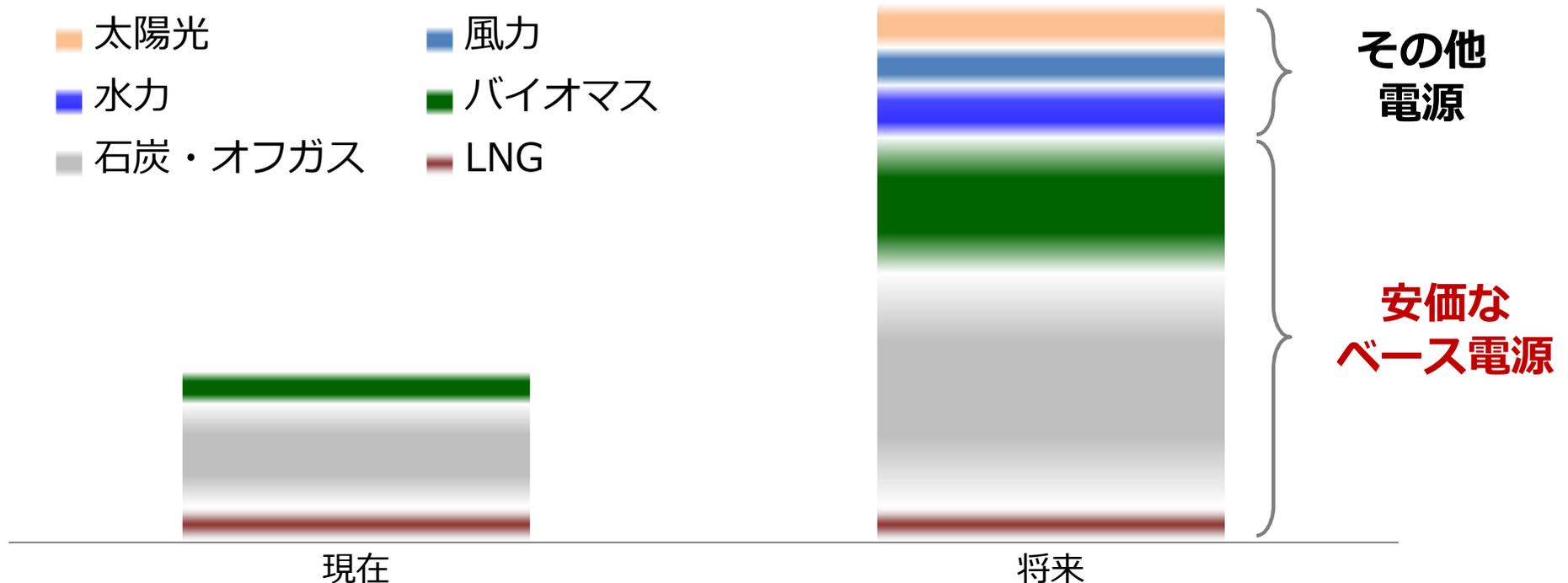
自由化の範囲



⚡ 低コストのベース電源を増量

- バイオマス発電所の新設により、安定的な自社ベース電源を増量する計画
- 他社からの電力購入も増加させる計画
- FIT制度によるバイオマス燃料、低コストの石炭火力を主燃料とする電力を購入する計画

電源調達計画イメージ



⚡ バイオマス発電所の新設

- 土佐に続き、大分県佐伯にPKSを燃料とするバイオマス発電所を建設中
- 近隣の佐伯市女島地区に我が国初のPKSセンターを設置予定
- その後も同様のバイオマス発電所への投資を継続予定。IRR15%以上を計画

佐伯プロジェクト概要

イーレックスニューエナジー佐伯(株)

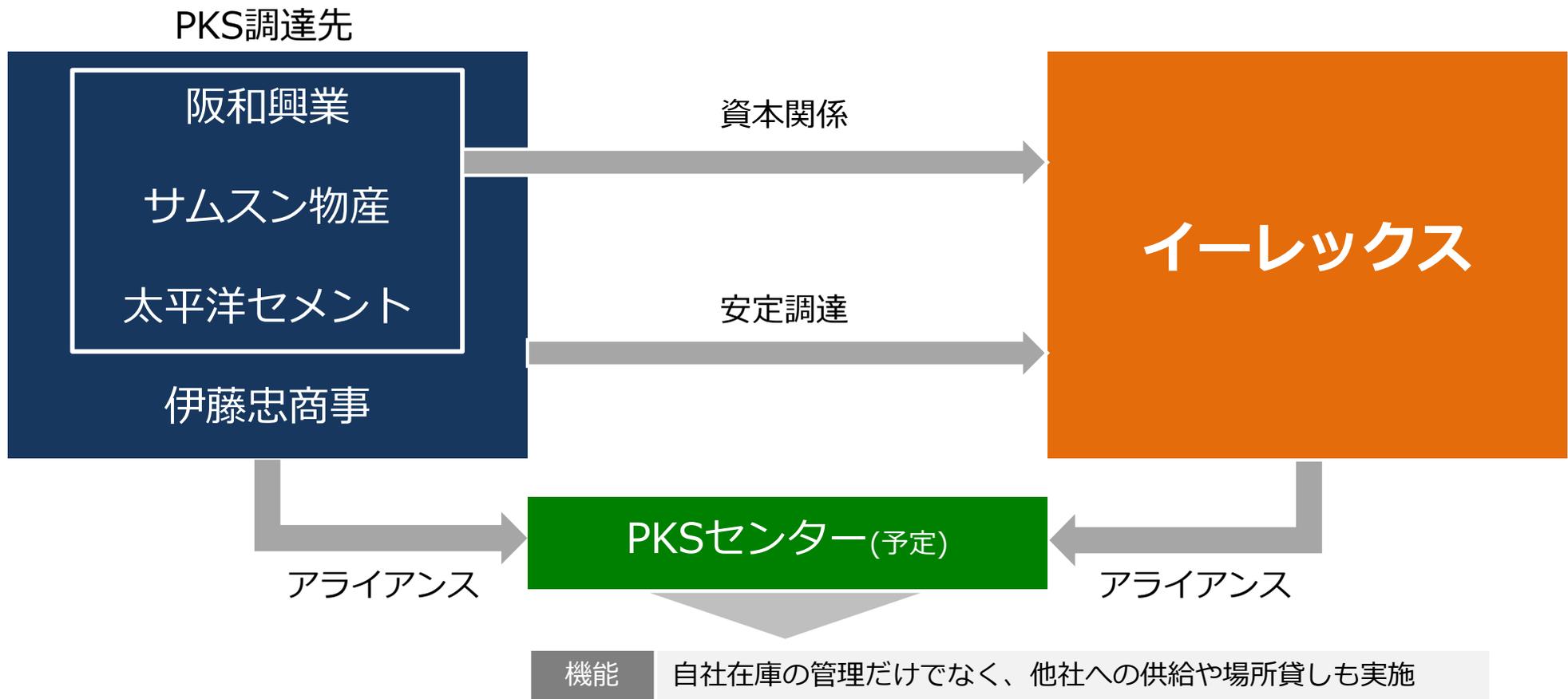
所在地	大分県佐伯市	燃料	PKS(パーム椰子殻)
発電方式	バイオマス発電方式	出力	定格出力5万kW(予定)
運転開始	2016年秋	投資額	167億円

- 太平洋セメント大分工場佐伯プラント（現在はセメント生産を中止）内に立地
- 循環流動層タイプのバイオマス発電設備（ENE土佐と同タイプ）を新設
- ENE土佐の稼働で獲得したPKS発電の運転技術と燃料調達のノウハウを継承
- 佐伯工場のインフラ（受変電設備や冷却ライン等）を利用可
- 東芝グループ（20%出資）、東燃ゼネラル石油（10%出資）との提携強化
- PKSセンターを活用した燃料調達により、土佐、佐伯の両発電所の安定操業を維持



⚡ PKSの安定調達

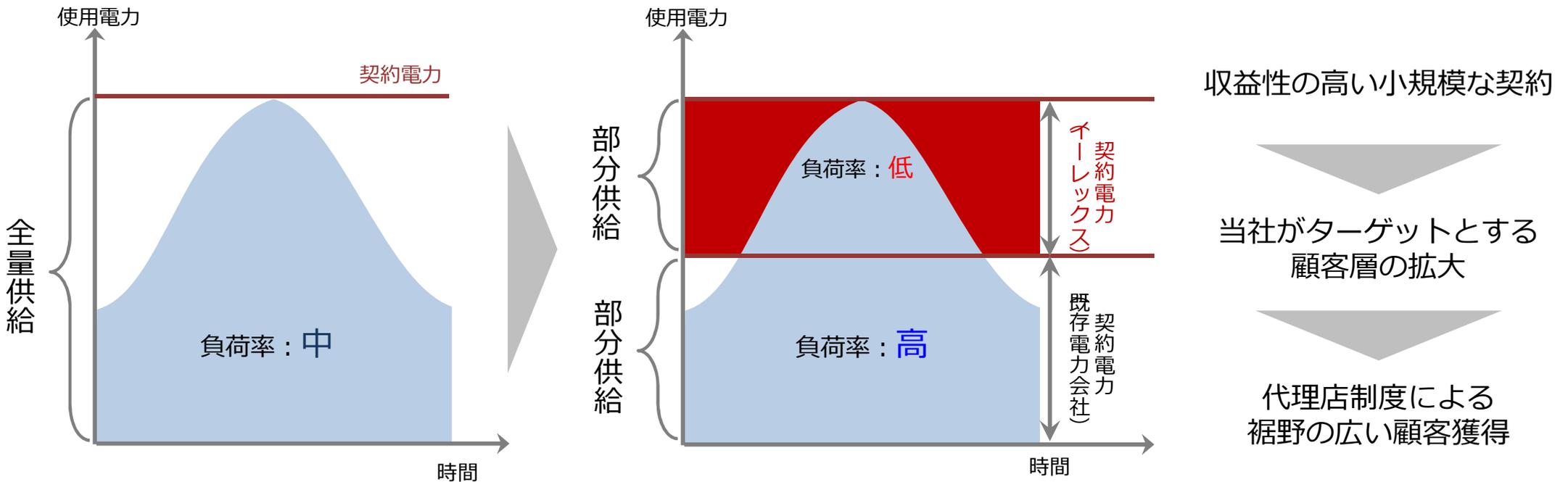
- 阪和興業、サムスン物産、太平洋セメントとの資本関係強化
- 我が国初のPKSセンターを設置予定
- PKSの安定調達により、土佐、佐伯の両発電所の安定操業を維持



⚡ 代理店営業による部分供給顧客の獲得

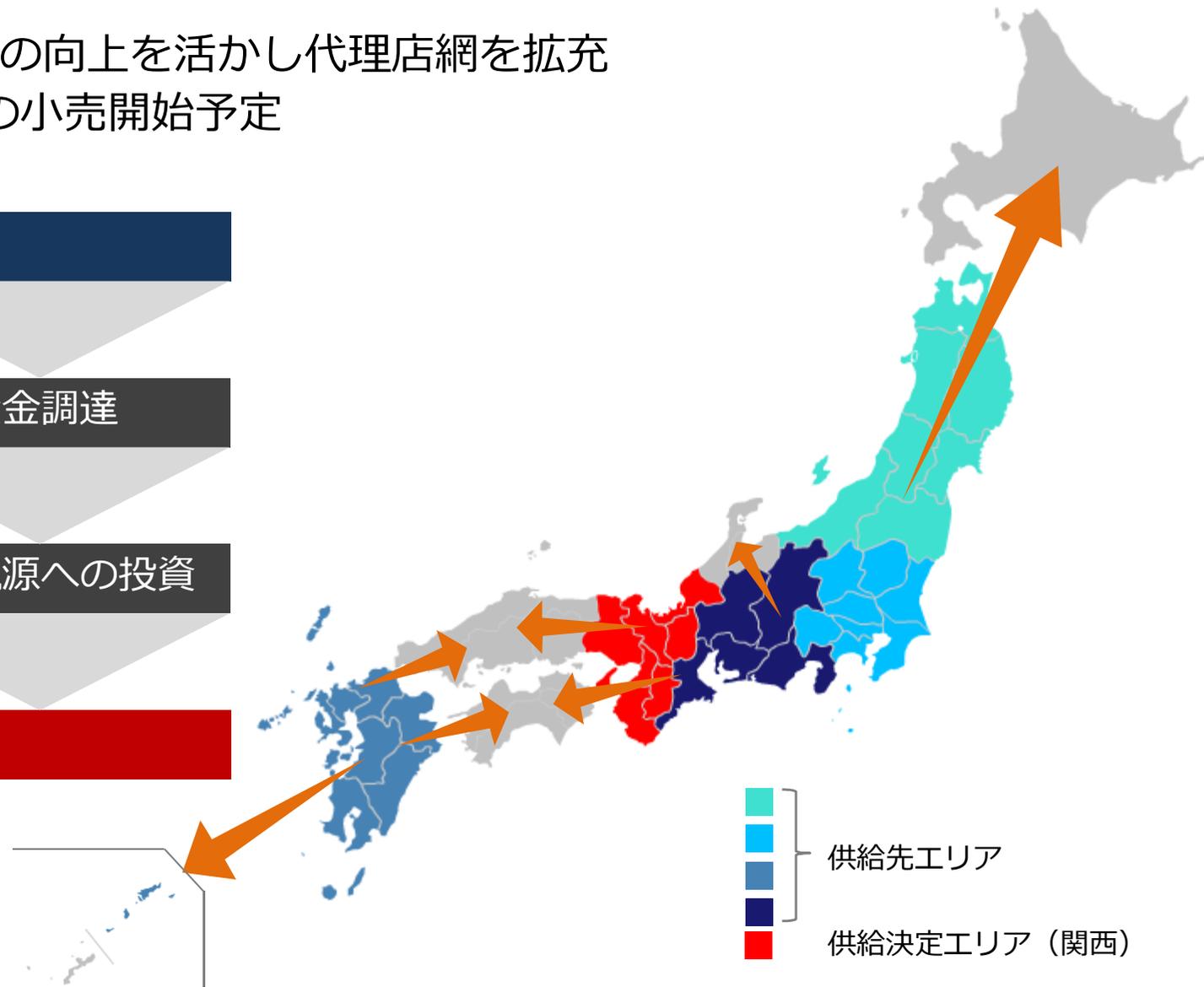
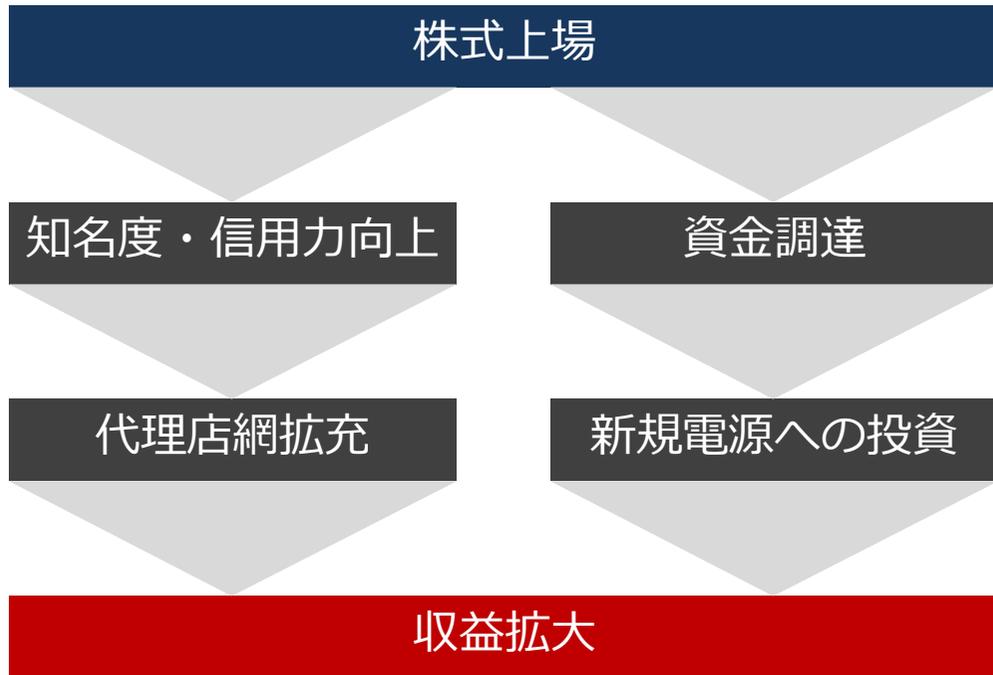
- 部分供給により収益性の高い（負荷率の低い）契約が可能に
- 部分供給による市場の拡大を機会と捉え、代理店営業を強化

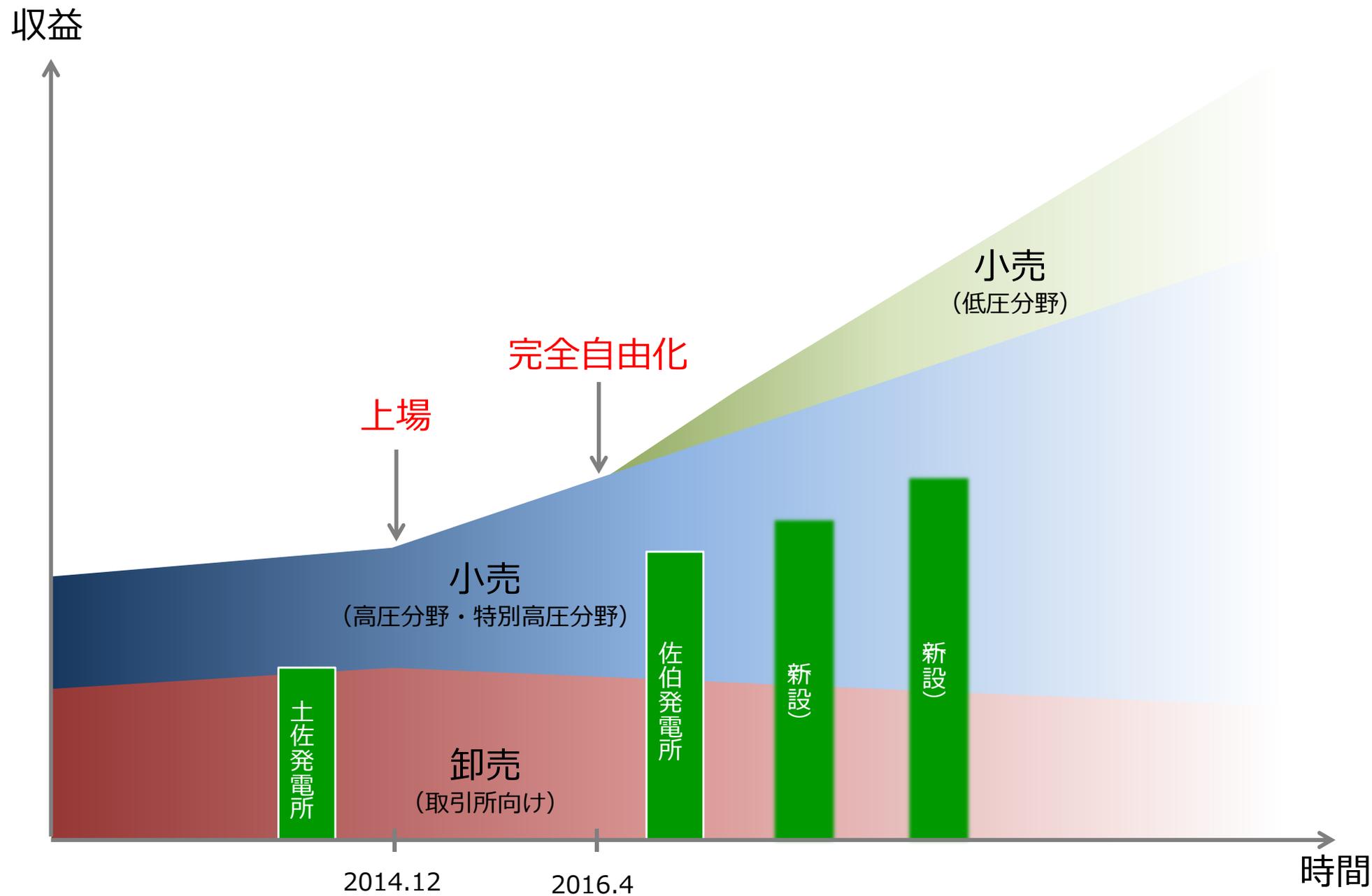
部分供給の仕組み



⚡ エリア拡大による新規顧客の獲得

- 上場による知名度・信用力の向上を活かし代理店網を拡充
- 2015年春には関西地区での小売開始予定





IV.業績の推移

(単位：百万円、下段は構成比)

	2013年3月期	2014年3月期		2015年3月期予想		2015年3月期 第2四半期累計
			前年比		前年比	
売上高	12,428 (100.0%)	15,311 (100.0%)	+20.3%	16,898 (100.0%)	+10.4%	7,762 (100.0%)
電力小売	5,957 (47.9%)	7,597 (49.6%)	+27.5%	-	-	4,940 (63.6%)
電力卸売	6,470 (52.1%)	7,713 (50.4%)	+19.2%	-	-	2,281 (36.4%)
売上総利益	2,147 (16.9%)	2,684 (17.5%)	+25.0%	-	-	1,180 (15.2%)
営業利益	1,159 (9.1%)	1,407 (9.2%)	+21.4%	1,530 (9.1%)	+8.7%	753 (9.7%)
経常利益	1,164 (9.1%)	1,390 (9.1%)	+19.4%	1,302 (7.7%)	▲6.3%	734 (9.5%)
当期純利益	679 (5.3%)	815 (5.3%)	+19.9%	916 (5.4%)	+12.4%	513 (6.6%)

(単位：百万円、下段は構成比)

		2013年3月期	2014年3月期		2015年3月期 第2四半期末
				前年増減額	
資産	流動資産	4,390 (78.6%)	5,272 (53.5%)	881	5,351 (47.8%)
	固定資産	1,195 (21.4%)	4,588 (46.5%)	3,393	5,845 (52.2%)
資産合計		5,586 (100.0%)	9,861 (100.0%)	4,275	11,196 (100.0%)
負債	流動負債	1,470 (26.3%)	2,606 (26.4%)	1,135	3,005 (26.8%)
	固定負債	1,409 (25.2%)	3,799 (38.5%)	2,390	3,575 (31.9%)
負債合計		2,879 (51.5%)	6,405 (65.0%)	3,526	6,580 (58.8%)
純資産合計		2,706 (48.5%)	3,455 (35.0%)	748	4,615 (41.2%)
負債・純資産合計		5,586 (100.0%)	9,861 (100.0%)	4,275	11,196 (100.0%)

(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期 第2四半期累計
営業キャッシュ・フロー	584	845	846
税金等調整前当期純利益	1,164	1,389	734
減価償却費	14	486	252
売上債権の増減額（△は増加）	104	▲407	188
たな卸資産の増減額	-	▲183	▲50
仕入債務の増減額（△は減少）	▲79	299	31
法人税等の支払額	▲775	▲421	▲386
投資キャッシュ・フロー	▲1,050	▲3,280	▲752
有形固定資産の取得	▲541	▲2,997	▲749
財務キャッシュ・フロー	1,224	1,848	408
現金及び現金同等物の期首残高	2,309	3,068	2,481
現金及び現金同等物の期末残高	3,068	2,481	2,983